

# 植林

富士見町御射山

戸の細川木材は5日、植林体験会を町内の里山整備地で開いた。「こどもの日」に合わせ、中学生以下の親子を対象に実施。参加者は同社員らから手順や注意点を聞き、1人6本ほどのコナラの苗木を1・5分間隔で植えた。(濱翔貴)

人工林の多くが植えてから60〜70年経過し、主伐・再造林の時期を迎えている中、人手が必要になる植林への関心を高めてもらおう

## 富士見 細川木材が親子体験会

# 未来の担い手に



と開催。昨年11月に続いて2回目で、親子対象は初めて。町内を拠点に活動する子ども科学遊びクラブの赤坂行男さん「信濃境」も参加し、地元の木材や竹を使った積み木や弓矢などで遊びと工作も楽しんだ。

午前と午後に分かれ、午前中は7組・約20人が参加。コナラの木は2〜3年生で班別できるようにテープを付けた。親子でシャベルを使って穴を掘り、諏訪湖の水草で作った堆肥を活用して丁寧に植林した。祖父の別荘に遊びに来たとい

↑植林体験会でコナラの苗木を植える参加者

う横浜市の二階滉太さん(12)は「都会にはない自然を体験できてうれしい。学校でSDGsを学んでいるので、植林をしたことでより深く学びたくなった」と笑顔だった。

同社によると、林業は機械化が進んでいるが「植林は人頼み」といい、育林から再造林への転換期を迎え、担い手や仲間を増やす必要があるという。窪田晃浩山林部長は「家族で参加することで、子どもと大人が山と自然に注目する機会になる。このイベントを機に、もっと林業に注目してほしい」と話した。

4、6日には高校生以上を対象とした同様の体験会を開催。3日間合計で780本の苗木を植えるという。